

4 温室効果ガスの排出の状況

計画期間 2 年度目（令和 6 年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		9	t-CO ₂
（温① 二室を 酸効除 化果く 炭ガ 素排 換出 算）	②非エネルギー起源二酸化炭素（③を除く。）		t-CO ₂
	③廃棄物の原燃料使用に伴う非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO ₂
	④メタン		t-CO ₂
	⑤一酸化二窒素		t-CO ₂
	⑥ハイドロフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑦パーフルオロカーボン類		t-CO ₂
	⑧六ふっ化硫黄		t-CO ₂
	⑨三ふっ化窒素		t-CO ₂
	⑩エネルギー起源二酸化炭素（発電所等配分前）		t-CO ₂
	温室効果ガス総排出量（①～⑩合計）		9

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標の達成状況

(1) 温室効果ガス排出量の抑制目標の達成状況

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	総排出量
------------------	------

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 4 年度		令和 7 年度		令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度			
温室効果ガス 総 排 出 量	7	t-CO ₂	7	t-CO ₂	8	t-CO ₂	9	t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）			1.5	%	▲ 19.2	%	▲ 25.9	%		%
温室効果ガス みなし総排出量						t-CO ₂		t-CO ₂		t-CO ₂
削減率（対 基準年度）						%		%		%

項 目	基準年度の実績		目標		計画期間の実績					
	令和 4 年度		令和 7 年度		令和 5 年度	令和 6 年度	令和 7 年度			
原単位あたりの 排 出 量										
削減率（対 基準年度）				%		%		%		%
原単位あたりの みなし排出量										
削減率（対 基準年度）						%		%		%

(2) 進捗状況に対する自己評価（目標の達成／非達成の理由）

前年比で約6.7%の増加。原因としては、客数の増加と外気温の上昇や天候の変化が挙げられます。気温の上昇に伴い空調の使用率の上昇と、食品売場の冷蔵・冷凍ケースへの負荷が大きな要員となります。屋上室外機の排熱効率においては、防音を優先したため効率が悪く、令和7年度に向けて一部防音壁をフェンスに切替を実施する。

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。

備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。

備考3 原単位あたりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量あたりの温室効果ガス排出量をいいます。

備考4 温室効果ガスみなし総排出量とは、温室効果ガス総排出量に対し、クレジット等の環境価値に相当するもの及び再生可能エネルギー等の利用による温室効果ガスの削減量等を調整したものをいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置の実施状況

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置の実施状況

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標	取組の実施状況
一般管理	エネルギー使用量の把握・計測・記録・分析 計測機器の導入による、使用実績の見える化	電気、水道使用量の昨年対比率 95%	月1回のメンテナンス会議で使用量を共有し、前年比、前月比の超過・削減があれば原因を分析し、次月度の対策を立案。
省エネルギー・省資源の推進	空調機、外調機の運転時間の短縮によるエネルギー消費の低減	開店と同時に運転、閉店1時間前に停止	外気温と天候に合わせて、不要時は空調の停止を実施。また、閉店1時間前の空調停止については夏季は熱中症対策もあり閉店時間まで空調は延長。
省エネルギー・省資源の推進	発注室、休憩室、事務所等の退出時の照明・空調の不使用	毎回実施するよう従業員に周知	不要な照明の消灯を実施 従業員に定期的に周知。また、後方の通路照明については消灯タイマーの設定を変更6分→3分
省エネルギー・省資源の推進	照明のタイマー設定を季節ごとに変更し、不要な照明を消灯 店内照明の明るさを時間ごとに調整	夏季は夜間照明を遅く点灯する 昼間は夜間と比べ店内照明を80%程の使用量に落とす	日の入時間と季節に合わせて照明の消灯タイマーと照度の設定を変更（夏季と冬季に実施）
省エネルギー・省資源の推進	退出時にパソコンの主電源を切る 事務用機器の電源コンセントをスイッチ付きのものとし、不使用時にオフにする	毎回実施するよう従業員に周知	勤務終了時のパソコンはスリープ状態ではなく電源OFFの徹底。 警備による退店後の細密巡回を実施（空調・熱源等）
省エネルギー・省資源の推進	自動販売機の不要な照明を消灯 エスカレーターに人感センサーによる自動運転を導入		設置済み
廃棄物の排出抑制等	重要ではない書類のコピー時に、両面コピーや裏紙を使用する 事務所に可燃用ゴミ箱の他に、紙資源用の分別ボックスを設置して古紙をリサイクル	毎回実施、分別するよう従業員に周知	可能であれば裏紙を使用。両面コピーの推進。 紙資源用の回収ボックスを設置しリサイクルを実施
廃棄物の排出抑制等	生ごみの堆肥化（野菜・果物くず、魚あら）	可燃ごみではなく生ごみとして出すよう従業員に周知	可燃ごみと生ごみで分別し、生ごみをリサイクルに出す。 食品ロス対策として製造数の計画立案の制度向上による廃棄の削減。
森林の保全・緑化の推進	企業グループで森林の保全及び整備活動の実施 店舗の屋上緑化、壁面緑化	緑化植物の管理	屋上・壁面緑化の実施。 猛暑で枯れた植栽については植え直しを実施。

(2) 再生可能エネルギー及び未利用エネルギーの利用の状況

ア 計画期間 2 年度目（令和 6 年度）における利用の状況

導入年度	設備等の種類	概要（規模、性能、発生エネルギー量等）

イ 上記のうち、他のものに供給した電力及び熱

区分	再生可能エネルギーの種類	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
電力		t-CO ₂
熱		t-CO ₂

(3) 環境価値（クレジット等）の活用状況

計画期間 2 年度目（令和 6 年度）におけるクレジット等の利用

クレジット等の種類	創出地	温室効果ガス換算量（みなしの削減量）
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂
		t-CO ₂

(4) みなしの排出量の算定に利用した温室効果ガス換算量（みなしの削減量）の合計

t-CO ₂

(5) その他の地球温暖化対策に係る措置の実施状況

<p>・各トイレに節水装置を設置、設置業者による定期的なメンテナンスを実施。 また、7月には直営の生鮮食品の各作業場の水道へ節水バルブの取付けを実施し、約11%の節水効果が出ております。</p>

(6) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組の実施状況

<p>・従業員へ節電に関するお知らせの実施 ・閉店後エレベーターの運転停止（後方従業員用エレベーターの禁止、運搬時のみ）</p>
--